
埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第91集

川端遺跡 1次調査
荷鞍ヶ谷戸遺跡 2次調査
向山遺跡 1次調査

2007.3

深谷市教育委員会

例 言

1. 本書は平成 17 年までに深谷市旧川本町地内で行われた発掘調査報告書である。
2. 本書の編集作業は、平成 18 年度に深谷市教育委員会が行った。
3. 本書の編集・執筆は、深谷市教育委員会川本事務所 村松篤が行った。
4. 本書掲載の図については、遺構のスケールは原則として 1/80、遺物のスケールは 1/8 とした。
5. 出土遺物の保管と詳細なデータは、深谷市川本出土文化財管理センターで管理する。
6. 本書の作成に際して、調査報告書デジタル化制作（凸版印刷株式会社）、について委託した。
7. 遺構遺物の詳細情報については、川本出土文化財管理センターホームページの深谷市遺跡情報データベースで公開している。そのため本書は遺跡調査のカタログ機能を果たしている。なお、図中の遺物番号は遺構番号横の No. とあわせてコード番号となる。

川端遺跡 1 次調査

1. 本書は、埼玉県深谷市畠山字川端 935-1,937 番地に所在する川端遺跡 1 次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査の原因は畠山地区集落排水事業処理施設建設工事で、調査は川本町教育委員会が町産業課から依頼を受け発掘調査を実施した。
3. 発掘調査及び整理作業の期間は以下の通りである。
発掘調査 昭和 62 年 11 月 1 日から 12 月 19 日
整理作業 平成 15 年 6 月 1 日から平成 17 年 6 月 30 日まで
4. 発掘担当者は村松篤があたった。

I 発掘調査にいたる経過

旧川本町では、早くから農村地域の下水道普及事業に取り組んできた。その最初の事業として畠山西部地区が採択となり、昭和 63 年度の供用開始を目的に管路整備が進められてきた。処理場建設用地について文化財の所在の協議を行ったところ荒川よりの河岸段丘上に位置することから試掘調査を行った後、取り扱いを協議することとした。昭和 62 年 10 月に試掘調査を実施したところ古墳時代から平安時代にかけての遺跡（川本町 NO135、川端遺跡）が所在することが判明した。そこで町教育委員会が主体となり発掘調査を行うこととなった。調査面積は 1000 m²、発掘届は 2004.11.09 付教文 3-624 号である。整理作業は調査後すぐに水洗・注記・復元を行い、平成 15 年度に遺構図版作成、平成 16 年度に遺物図版作成、平成 17 年度に編集・原稿執筆を行い、平成 18 年度に報告書を刊行した。

II 遺跡の位置

旧川本町は、北は深谷市南部に当たり、西は寄居町、南は比企郡嵐山町、東は熊谷市と境を接している。町の中央をほぼ東西方向に荒川が横断しており、北は櫛挽台地、南側に江南台地が広がっている。本遺跡は荒川の右岸の河岸段丘上に立地している。遺跡は緩やかに南東に向かい傾斜し、遺跡は標高67m付近に位置する。遺跡の北の荒川は畠山重忠の故事で有名な名称鶯ノ瀬となっており、いまは六堰ダムとなっている。

川端遺跡はこれまで4次の調査が行われている。最も古い遺物は、1次調査区から東に200m離れた2次調査区から縄文時代後期の包含層が確認された。古墳時代以降になると西側に位置する如意遺跡から、古墳時代から平安時代の集落が見つかっていて、南に隣接する如意南遺跡と合わせると500軒を越す大集落となる。中世には畠山館跡が位置していて、武蔵武士畠山重忠の故地として知られている。

III 遺構と遺物

調査区は、荒川と接する座線のすぐ南側に位置しており、全体に南側に緩やかに傾斜する。竪穴住居は10軒、掘立柱建物3棟のほか200本を越す柱穴群が検出されている(註1)。遺構は調査区南側に集中しており、北半においては削平されたためか遺構密度は薄くなる。

1. 住居跡

古墳時代の住居は、1・8号住居の2軒ある。主に調査区南側に分布しており、全容は明らかでない。1号住居からは土鏝が5点まとまって出土している。1・2号建物も古墳時代のもと考えられる。

古代の住居は、2・3・5・6・7・9・10号住居の7軒である。7世紀末から8世紀初頭に位置づけられる5号、6号住居は一辺7m前後の方形の大型住居で南北に並んで検出された。8世紀前半の住居は3号住居がある。方形を呈し、4本柱穴が検出された。北壁にかまどを作りつけ、かまどは長胴甕を補強としている。9世紀前半の住居としては7号住居があげられる。かまどを東壁に設けていて、今回検出された住居の中で唯一主軸が東西方向に振れている。他の2・9・10号住居は出土遺物が少なく、詳細な時期は不明である。

2. 掘立柱建物と柱穴群

掘立柱建物は、3棟検出され、他に200本を越す柱穴群が調査区南地区を中心に検出された。1号建物は柱穴群の北端で調査区東端で確認され一間二間の規模である。2号建物は調査区北端に位置しており、北半は遺構外に広がりを見せており詳細は不明である。3号建物は、南側の柱穴群で検出されたもので、一間二間の東西棟で調査した範囲内では東側にさらに一間張り出し、西側には棟持柱が検出されている。柱穴内からは遺物が出土し、中には緑釉陶器破片が出土する柱穴が見られる。

柱穴群は調査区南半で住居群の間を縫うように検出されており、200本を越す数が確認されている。柱穴は0.5~1.0mの楕円形を呈するものが主体であり、深さ0.2~0.5m程度である。建物の配置が確認されたものは1号建物と3号建物であった。多くの柱穴覆土には土器破片が混入

している。時期は古墳時代から古代にかけてと推定されるが、6号柱穴からは青磁碗破片、75号柱穴からは古銭が検出されていて、中世まで下るものがあることが推定される。

3. 出土遺物

出土遺物は、住居跡を中心に多量に出土している。古墳時代の遺物としては、土師器坏・甕の他1号住居土から銅製の耳環、後世の遺構から円筒埴輪破片が少量出土する。古代の遺物としては、土師器坏・甕、須恵器坏・甕・長頸瓶・蓋・小型壺、紡錘車、羽口が検出され、他に緑釉陶器、灰釉陶器破片が出土している。古墳時代から古代にかけての遺構からは100本を越す土錘が検出されていて荒川縁辺における生業の一端を示すものと注目される。

中世の遺物としては、青磁碗、古銭、瀬戸美濃陶器が少量検出されている。

IV まとめ

川端遺跡が位置する畠山地区は、武蔵武士の鑑とうたわれる畠山重忠出生地と伝えられ、関係する史跡が多く残る。中世には畠山庄と呼ばれており、重忠活躍の裏づけとなる豊かな土地柄であったことが類推される。川端遺跡は、荒川のほとりに位置しており、川幅は狭く水運に恵まれた要所と考えられる。また、鶯ノ瀬の伝承に伝わる浅瀬（基盤の岩が高い）であったと考えられ、陸路における要所でもあったことが推定される。

1次調査では、古墳時代から古代の遺構遺物が発見された。中でも男衾郡域ではこれまでに調査された遺跡では、緑釉陶器を出土する遺跡はなく、出土する3号建物は特筆される(註2)。また、5・6号住居から出土した7世紀末から8世紀初頭の土器群は、寄居町末野窯址群の変遷を考える上で類例の少ない貴重な例としてあげることができると考えられる。また、土錘は本調査区から100本以上が出土した。隣接する如意遺跡でも2000本以上の土錘が出土しており、荒川における盛んな漁労活動を示すものと考えられる。

中世の遺跡の様相は、なかなかつかむことができなかった周辺の調査においても中世での遺構遺物の検出は難しく、今回柱穴内から出土した青磁碗や古銭などはある意味貴重な発見といえる。1次調査を行った昭和63年当時は周辺ではじめての調査区であり、周辺の遺跡の様子はまったくわからなかったが今では、川端遺跡で4次、如意遺跡で4次、如意南遺跡で4次の発掘調査が行われ、古墳時代後期から古代にかけての集落の様相が徐々に解明され始めている。今回の報告例を含めてさらに遺跡の構造を検討していきたいものと考えている。

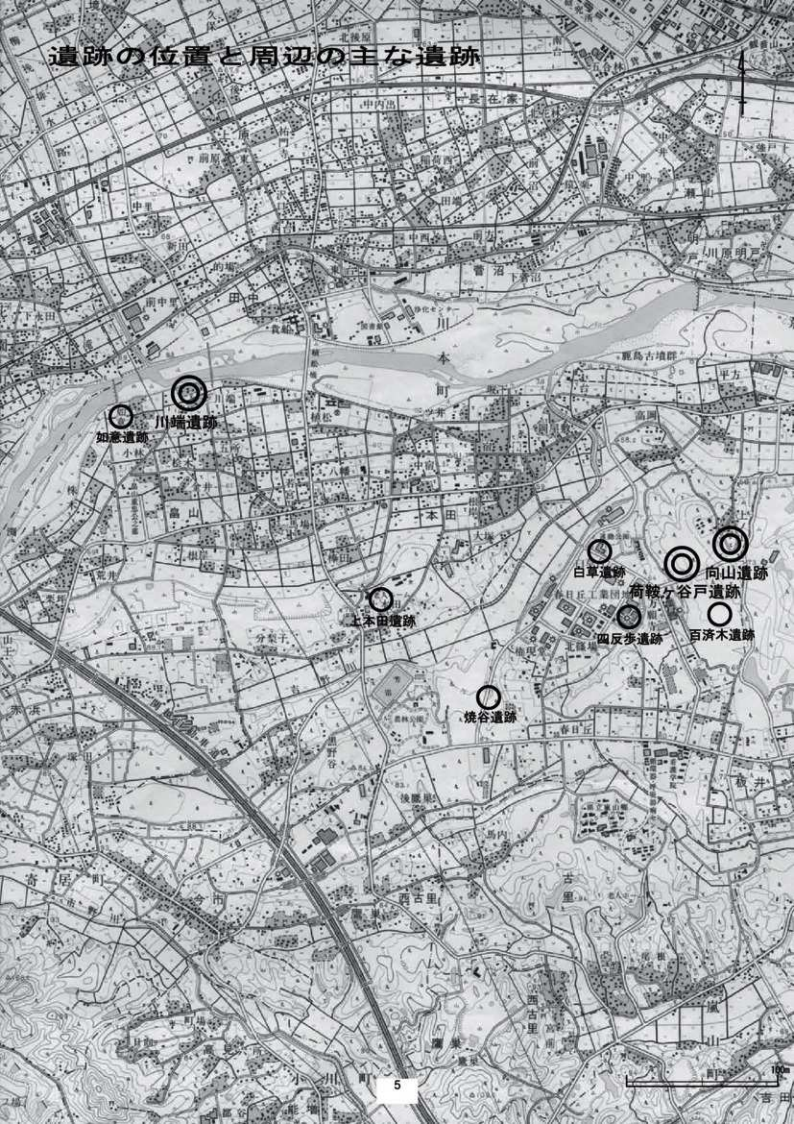
(註1)発掘調査時には住居跡15軒、建物跡1棟、柱穴群と認識していたが、整理時に見直し遺構数を変更した。

(註2)村松篤 2000 「緑釉陶器を出土する古代の遺跡」埼玉考古35号

川端遺跡1次調査遺構観察表

調査時代	発掘区	住居	形状	面積	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	付随施設(m)	出土品			
5世紀後半	0001	住居	調査区東側に位置しており住居全体の1/3を調査した。方形を呈し、西側のコーナ―を缺出した。遺土は褐色系シトで、調査区内からほぼは検出されない。柱穴は本棟から南西側10mほど南に、壁に準って土師器や土師土5箇が集中して出た。遺土上層からは瓦葺きが出た。住居内南1側れて土師器が出土した。	K-9	方形	N-45-W	4.00	3.85	0.21	—	有段の土師器坪が特徴(土師器坪4、土師1、瓦葺1)遺土中から性格不明の磁器が出土する	
古代	0002	住居	調査区東側、1号住居の西に隣接して位置する。ほぼ正方形を呈し、カマドは検出されない。浅い柱穴(0.2m)が4本ほぼ四方隅から検出され、東壁側の柱穴間に土配される。床面はほぼ平直で壁が東西向き。遺物の出土は少ない。	J-9	方形	N-30-W	4.05	3.78	0.13	—	遺器類は土師器以下に炭化文を有す(遺器類1)	
8世紀前半	0003	住居	調査区南西、西壁は調査区外となる。方形を呈し、北側にカマドが設けられる。カマドは両端に神状の石が置かれ、カマド全面に神状に並べられていた土師器葺が確認される状態である。柱穴は本棟から北、北側隅から西の約2mで検出される。床面は平直で壁ととなる。カマド北面から土師器が出た。	I-12	方形	N-40-W	4.42	4.18	0.35	0.95×0.38	カマド(北壁)1.20×0.20	遺器類は、産土層辺りから削り、胎土中に多数の砂粒を含む。高野土と産土。土師器は傾斜上平に遺文を有するイブ(土師器坪2、遺器類1、土師器葺4、高野1、磁器類1、土師器)
古代	0004	住居	調査区南東、2号住居と4号住居に挟まれて検出した。長方形を呈し、北壁にカマドが設けられる。カマドは両端が、床面はほぼ平直で砂葺となる。カマドは北壁やや西側に設けられ、あまり狭くない。遺土上面から長野土と小豆が出土する。柱穴は本棟から北西側に、北側隅から西の約2mで検出される。床面は平直で壁ととなる。西壁側から土師器坪を伏せた。	I-10	長方形	N-40-W	6.62	5.86	0.23	7.20×0.78	カマド1.80×0.20	遺器類は大きぶりの陶板へう削り、胎土中に小豆のものと大ぶりで身の深みのあるものがある。(土師器坪10-壁3側1、遺器類坪3-長野土1遺1、土師7)
7世紀後半～8世紀前半	0005	住居	調査区南側ほぼ中央に位置し、南側は調査区外に広がる。6号住居と南側に隣接して検出される。床面はほぼ平直で砂葺となる。カマドは北壁やや西側に設けられ、あまり狭くない。遺土上面から長野土と小豆が出土する。柱穴は本棟から北西側に、北側隅から西の約2mで検出される。床面は平直で壁ととなる。西壁側から土師器坪を伏せた。	G-12	方形	N-0-S	6.88	7.44	0.38	1.16×0.34	カマド1.00×0.20	遺器類は土師器が検出される。土師器坪10-壁3側1、遺器類坪3-長野土1遺1、土師7)
7世紀後半～8世紀前半	0006	住居	調査区南側ほぼ中央に位置し、5号住居の北側にほぼ同じ規模で検出されている。平直で方形を呈し、床面はほぼ平直で砂葺となる。カマドは北壁に設けられ、あまり狭くない。カマドの両端に二枚の土師器片の神状が出土する。柱穴は本棟から北西側に、北側隅から西の約2mで検出される。床面は平直で壁ととなる。西壁側から土師器坪を伏せた。	G-10	方形	N-0-S	6.84	7.28	0.25	1.16×0.18	カマド1.00×0.20	遺器類は大きぶりの産土へう削りのものが特徴。遺土大ぶりのものと小形で身の深みのあるものがある。(土師器坪13-高野土1遺1、遺器類坪3-高野土1遺1、高野土1遺1、長野土1遺1、高野土1遺1、土師器坪10-壁3側1、長野土1遺1、土師7)
8世紀前半	0007	住居	調査区西側に位置しており、4号住居の西側に比ぶ、平直で長方形を呈し、床面はほぼ平直で砂葺となる。カマドは東壁に設けられ、あまり狭くない。柱穴は本棟から北西側に、北側隅から西の約2mで検出される。床面は平直で壁ととなる。西壁側から土師器坪を伏せた。	E-10	長方形	N-50-E	5.06	3.74	0.18	0.62×0.18	カマド0.80×0.20	遺器類は高野土と土師器はコの土を特徴とする。(遺器類坪4-高野土1遺1、土師器坪3、磁器類1、土師12)
5世紀後半	0008	住居	調査区南側で9号住居と10号住居に挟まれて検出された。南側は調査区外に広がる。平直で長方形を呈し、床面はほぼ平直で砂葺となる。カマドは北壁に設けられ、あまり狭くない。柱穴は本棟から北西側に、北側隅から西の約2mで検出される。床面は平直で壁ととなる。西壁側から土師器坪を伏せた。	E-13	不整形	—	5.14	2.60	0.28	—	—	有段坪が出土(土師器坪1-遺1、遺器類1、土師12)
古代	0009	住居	調査区西側で検出された。西側1/3は調査区外に広がる。平直で長方形を呈し、床面はほぼ平直で砂葺となる。カマドは北壁中央に位置し、水筒が設けられ、推定は壁の間に設けられている。約4mは住居北東から検出され、柱穴は主柱穴が本棟から北西側に、北側隅から西の約2mで検出される。床面は平直で壁ととなる。西壁側から土師器坪を伏せた。	D-13	方形	N-5-W	4.60	3.36	0.29	0.44×0.24	カマド1.15×0.20	土師器土(土師器坪1、遺器類1、土師13)
古代	0010	住居	調査区北側に位置し、東辺は削り出し、方形を呈し北側にカマドの張り出しを有する。南に1.2m離れて、2.2×1.2mの横溝の南側に遺文を有する。遺文が検出される。遺土中から高野土が出た。	H-7	方形	N-5-W	3.12	2.64	0.10	—	—	土師器土(土師器坪台1、土師2)
5世紀後半	0001	住居	調査区東側で検出された。一層×二層の南直壁で、柱穴間の間隔は約2.7m、東行2.5mを測る。柱穴の深さは、西0.5m、東2.0～0.6mを測る。旧19号住居	D-9	—	N-0-S	4.70	2.70	—	—	—	有段の坪を有する土師器多量に出土するが磁器は少量の遺文を有するものも検出される(遺文土1、土師2)
5世紀後半	0002	住居	調査区北壁側から検出された。東辺は削り出される。北側は調査区外に広がる。平直で長方形を呈し、床面はほぼ平直で砂葺となる。カマドは東壁に設けられ、あまり狭くない。柱穴は本棟から北西側に、北側隅から西の約2mで検出される。床面は平直で壁ととなる。西壁側から土師器坪を伏せた。	E-5	—	N-0-S	1.50	2.50	—	—	—	限らず検出されない
8世紀前半	0003	住居	調査区南側で検出された。一層×二層で、長軸4.4m、短軸2.3mを計る東西壁で、柱の間隔は、東行き、新行とも2.2m間隔で、東側一層間隔が幅が柱間は1.5mを計る。柱穴は深さ0.8m、長さ0.3mで柱は南側でなく、柱を挟んで東側の間に設けられているものもあり、中にローム土と褐色土が互層になる部分の一部確認された。西側には建築物の外側に掘り出した位置に神状柱と推定される柱穴が検出される。磁器類が出土したの11号柱穴に集中し、柱穴には磁器が、柱穴には、高野土と産土が検出される。3柱穴からは長野土が検出される	J-12	—	N-40-W	4.40	2.20	—	—	—	(磁器類1遺1、産土、長野土1遺1、土師2)
古代	0001	柱穴	調査区南側を中心に、柱穴が密集して183基検出されている。中には建築物の柱穴として配列が確認されたもの(1～3号建物)があるが、ほとんどのものは配列は不明である。柱穴内からは土師器坪-壁、遺器類坪-壁が出土するものも検出される。南側は明確ではないが古墳時代から古代のものも中心で、中に青銅器や北洋銅が出土したもの(30号柱穴)と中世のものも検出される	—	—	—	—	—	—	—	(土師器坪2、遺器類坪5-壁、高野土1遺1、土師2、土師9)	
中世	0001	柱穴	調査区南側を中心に、柱穴が密集して183基検出されている。中には建築物の柱穴として配列が確認されたもの(1～3号建物)があるが、ほとんどのものは配列は不明である。柱穴内からは土師器坪-壁、遺器類坪-壁が出土するものも検出される。南側は明確ではないが古墳時代から古代のものも中心で、中に青銅器や北洋銅が出土したもの(30号柱穴)と中世のものも検出される	—	—	—	—	—	—	—	(青銅器1、高野7)	

遺跡の位置と周辺の主な遺跡



荒川



1次調査区 (本書)

4次調査区

如意遺跡

3次調査区

川端遺跡

0 200m

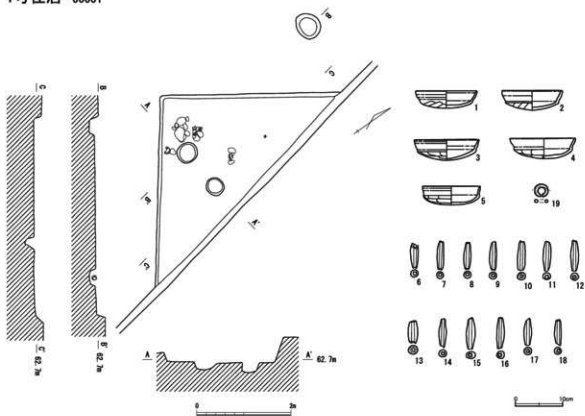


島載)

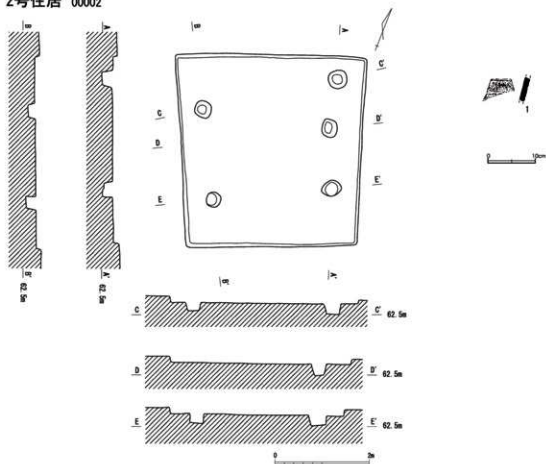
川端遺跡1次調査区全体図

川端遺跡

1号住居 00001



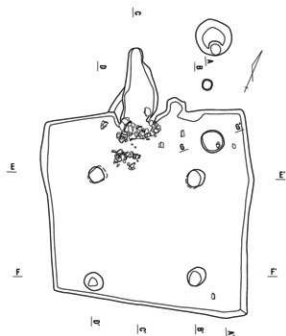
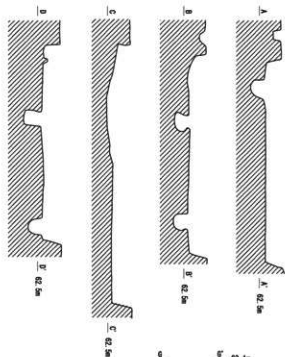
2号住居 00002



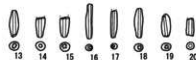
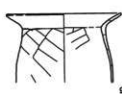
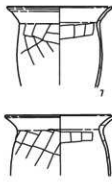
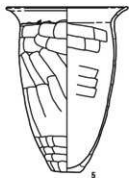
川端遺跡

3号住居

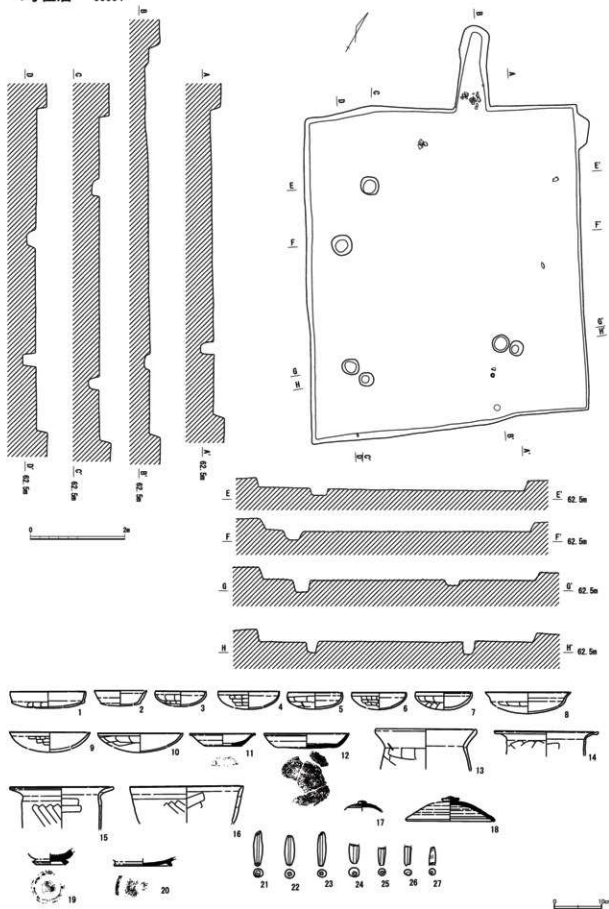
00003



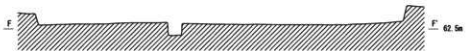
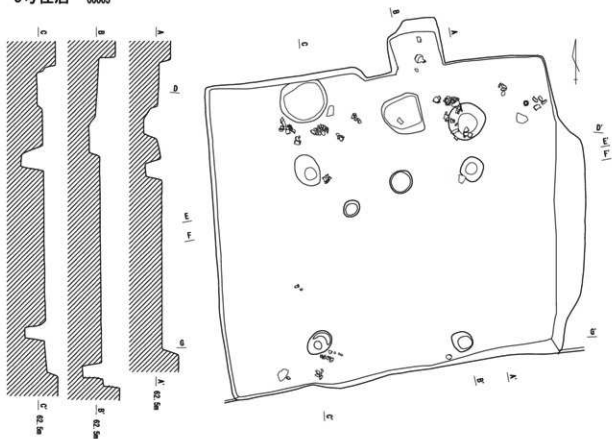
- 0-4' 灰褐色土層
 第1層 暗灰褐色土層 焼土粒 (5大以下) を多量に含む
 第2層 暗灰褐色土層 焼土粒 (5大以下) を多量に含む
 第3層 暗灰褐色土層 焼土粒 (5大以下) をわずかに含む
 第4層 暗灰褐色土層



川端遺跡
4号住居 00004

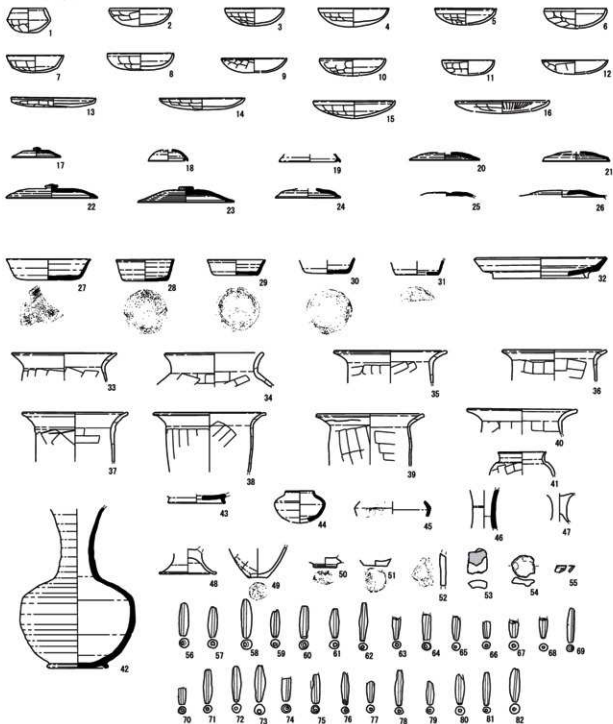


川端遺跡
5号住居 00005



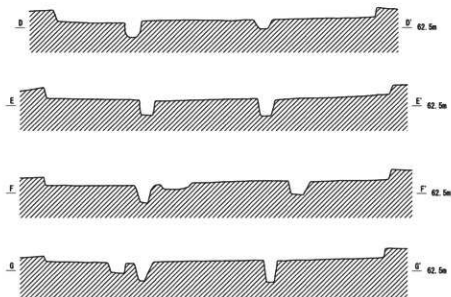
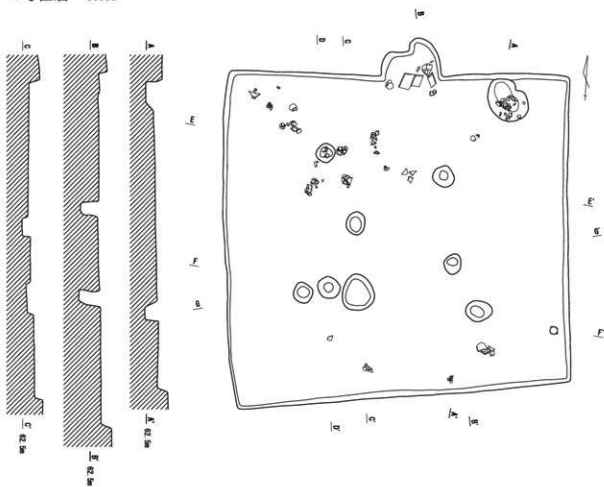
川端遺跡

5号住居 00005



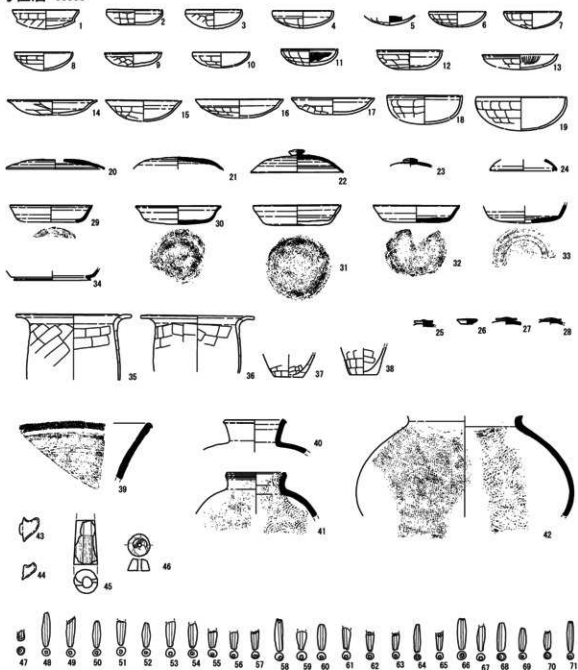
0 10mm

川端遺跡
6号住居 00006

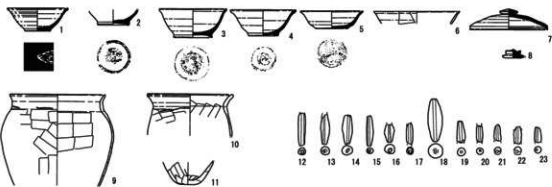
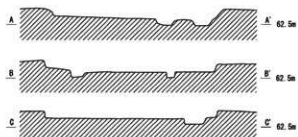
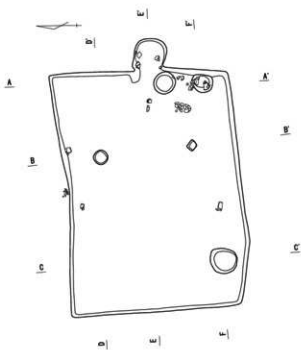
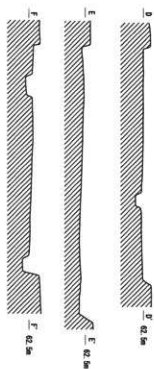


川端遺跡

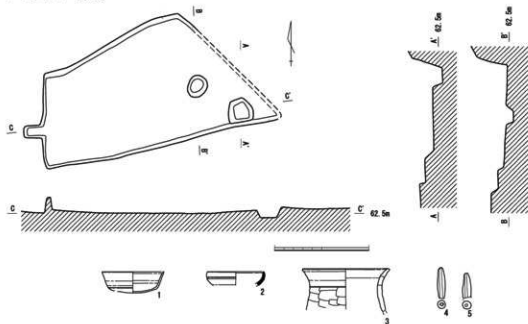
6号住居 00006



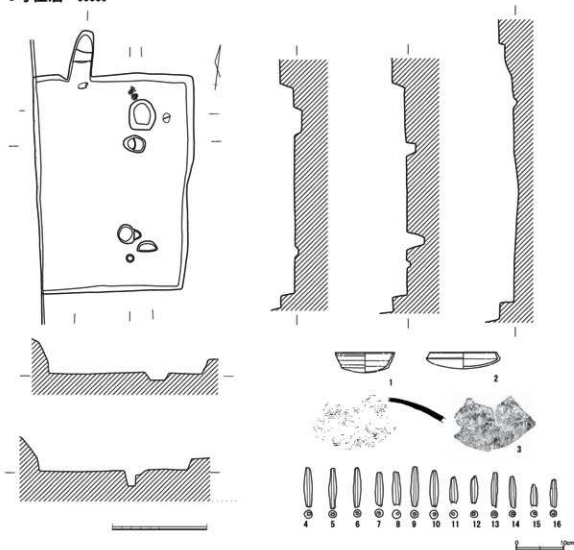
川端遺跡
7号住居 00007



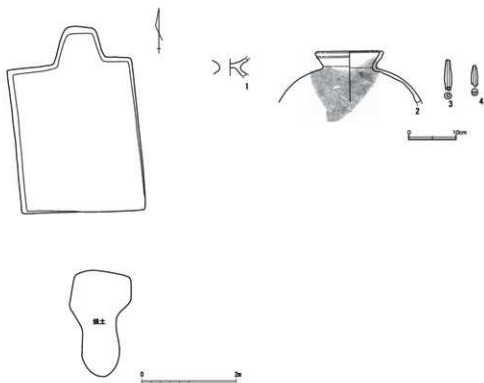
川端遺跡
8号住居 00008



9号住居 00009



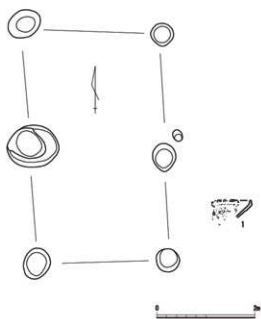
川端遺跡
10号住居 00010



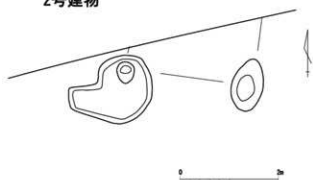
川端遺跡1次調査区全景

川端遺跡

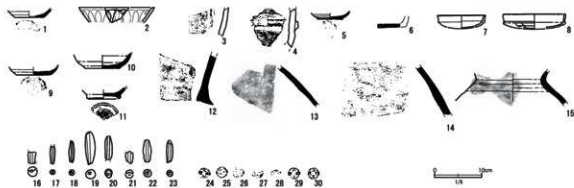
1号建物 00012



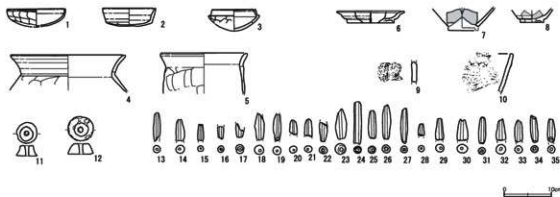
2号建物



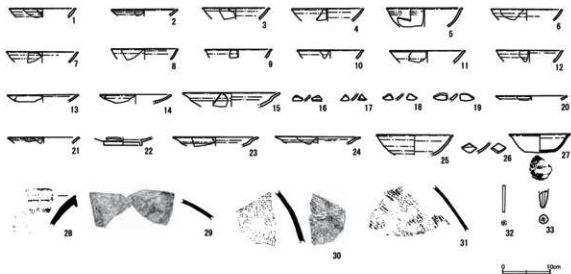
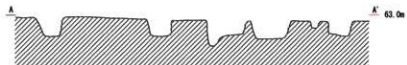
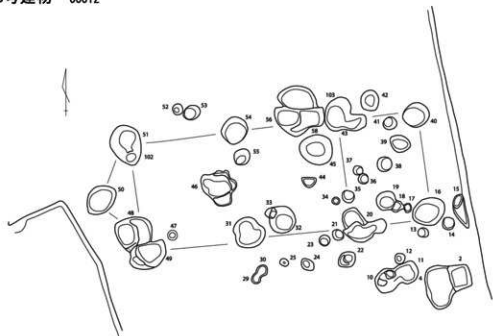
柱穴 00013



包含層 00014



川端遺跡
3号建物 00012



荷鞍ヶ谷戸遺跡 2 次調査・向山遺跡 1 次調査

1. 本書は、埼玉県深谷市本田字荷鞍ヶ谷戸 1207 番地他に所在する荷鞍ヶ谷戸遺跡 2 次調査と本田字向山 1179 番地に所在する向山遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査の原因は町道 D-257 線建設工事で、調査は川本町遺跡調査会が川本町建設課から依頼を受け発掘調査を実施した。
3. 発掘調査及び整理作業の期間は以下の通りである。
発掘調査 平成 9 年 8 月 18 日～11 月 8 日
整理期間 平成 16 年度、17 年度で断続的に実施

I 発掘調査にいたる経過

旧川本町では、南の平地林に進出する予定の工場立地を促進するため町道 D-257 線を新設することとした。町建設課から協議を受けた町教育委員会は、建設予定地内の遺跡の所在を確認するため、用地取得にあわせ継続的に試掘調査を実施した。その結果、向山地区と、荷鞍ヶ谷戸地区において遺跡の存在が確認され、発掘調査を行うこととした。なお、西側の谷津田から万願寺遺跡にかけても試掘調査を行ったが、遺跡は確認されなかった。そこで町建設課から川本町遺跡調査会が受託し、発掘調査を行った。調査面積は、荷鞍ヶ谷戸地区が 700 m²、向山地区が 500 m²、である。発掘調査届は平成 9 年 12 月 10 日付け教文第 2-149 号である。

II 遺跡の位置

荷鞍ヶ谷戸遺跡は、深谷市の南東に位置し、旧川本地域に位置する。ほぼ東西方向流れる荒川の右岸、江南台地上に立地している。遺跡の西側には谷津田が位置しており、遺跡は緩やかに南西に向かい傾斜し、標高 67m 付近に位置する。

荷鞍ヶ谷戸遺跡の 1 次調査は平成 5 年に行われており、弥生時代後期の住居 1 軒と 8 世紀前半の住居が検出されている。また、南に隣接する百済木遺跡からは古代豪族の居宅と推定される大型建物群をはじめ、縄文時代早期の遺構遺物、中世の寺院と推定される遺構群が発見されている。

III 荷鞍ヶ谷戸遺跡の遺構と遺物

調査区は南西傾斜の斜面下位に位置しており、竪穴住居は 1 軒、土坑 3 基、遺物包含層（埋没谷）が検出された。遺構の時期は縄文時代後期(1 号住居、2 号土坑)、弥生時代後期 (1 号土坑、3 号土坑、遺物包含層)に分けられる。

1. 縄文時代

1 号住居は斜面下位、埋没谷際に位置している。楕円形を呈しており、南壁は斜面により消失する。中央に石囲い埋甕炉が位置し、貼り床、柱穴などは確認できない。炉を石囲いに用いられ

た礫は、チャート質の円礫で、楕円形に配され、被熱により赤化している。埋甕は、深鉢を埋設し、底面に二個体の土器を砕いたものを敷くように埋設する。炉内の土は良く焼けていた。

2号土坑は、調査区ほぼ中央、斜面上位で検出される。楕円形を呈し深鉢の底部完形品が出土する。土器の周辺からは焼土が検出された。

このほかに1号住居と2号土坑間の斜面上に堆積した黒色土から早期、後期の土器が出土する。早期の土器は細隆起線で施文する野島式土器で内面には、条痕文が残る。住居と土坑出土の土器は、堀ノ内Ⅱ式である。縄文時代の石器としては礫器、スタンプ形石器がある。

2. 弥生時代

1号土坑は、調査区東側、1号住居の西に隣接して斜面に位置する。楕円形を呈し、断面は皿状を呈する。覆土中から浅鉢が出土する。

3号土坑は、調査区北壁際で検出される。楕円形を呈し南側は斜面により立ち上がりが確認されない。覆土中から弥生後期土器片が出土する。

遺物包含層は、調査区南西で東西方向に形成された、埋没谷の中から弥生土器が集中して検出された。谷底からは、炭化物が集中して検出された。

出土した土器は、後期吉ヶ谷式土器の壺、甕、高坏である。石器は、3号土坑から出土した棒状磨り石、敲石のほか、包含層から扁平磨石、台石が出土する。

IV 向山遺跡の調査

荷鞍ヶ谷戸遺跡の東500mの地点で、向山遺跡が発見された。窪んだ谷状の底から井戸1基と風倒木痕4基が検出された。1号井戸は素掘りのもので、円形を呈し、中半から底面よりはすばまる漏斗状を呈する。遺物はないが底面に河原礫1点が検出された。

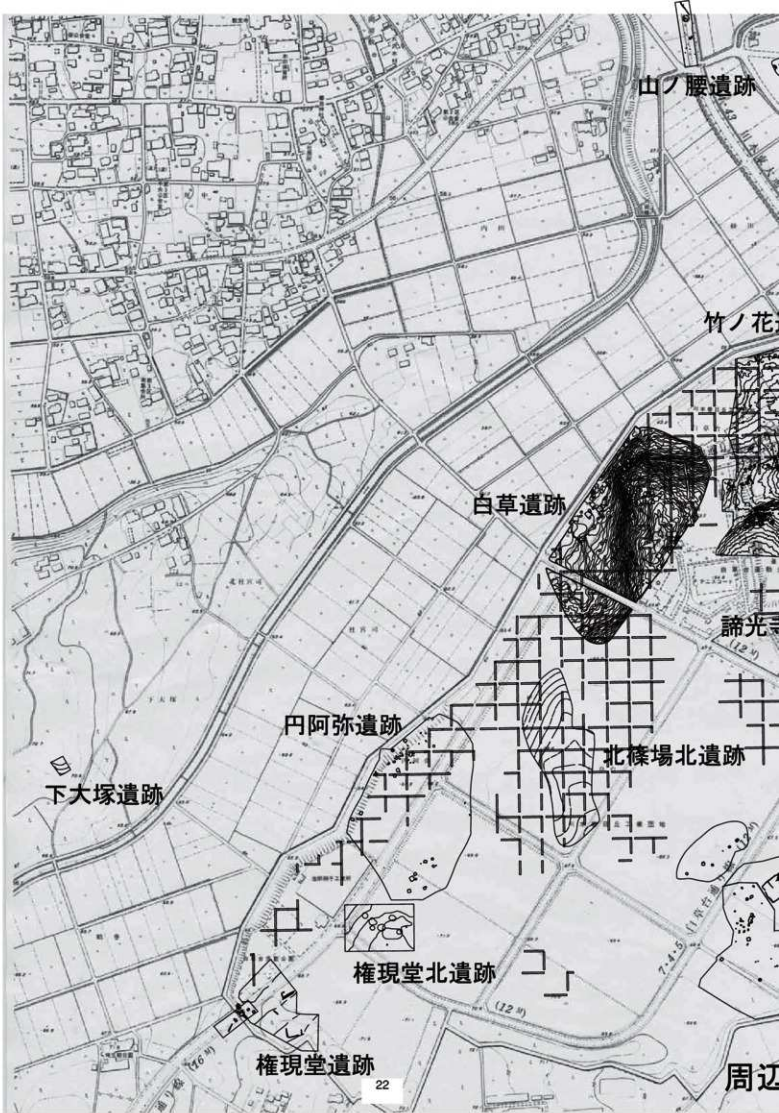
V まとめ

荷鞍ヶ谷戸遺跡の調査では、縄文時代後期前半の住居が土坑とともに確認された。は東に100mほど離れた同一支谷内に位置する四反歩遺跡からは、後期前半の住居が緩斜面地から1軒検出された(註1)。隅丸方形で中央に石囲い炉を有するもので、石囲い炉内には土器が敷かれていて、本住居例と類似している。江南台地では単独の住居で構成される後期の小規模集落が目立ち、短期の居住を繰り返す集団の存在が推定される。

また、1次調査に引き続き弥生時代後期の遺跡の広がりが確認された。江南台地北部では谷を開析する谷津田地形に沿って、弥生時代後期の遺跡が立地するが本調査でも同様の傾向が把握された。出土遺物のうち棒状磨り石、扁平磨石などの石器は、この地域の生業を物語る特徴的な遺物ということができる(註2)。

(註1)1993「四反歩遺跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第130集

(註2)2003、「吉ヶ谷期の石器文化」埼玉考古第38号



山ノ腰遺跡

竹ノ花

白草遺跡

下大塚遺跡

円阿弥遺跡

北篠場北遺跡

光説
(12)

権現堂北遺跡

権現堂遺跡

周辺



舟山遺跡

遺跡

鹿寺

四反歩遺跡

の遺跡

荷鞍ヶ谷戸遺跡

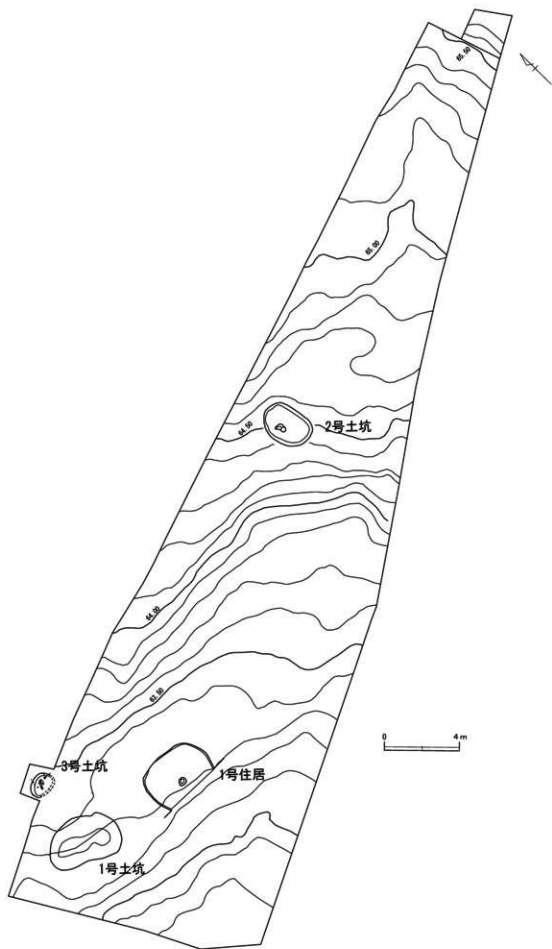
1次調査区

2次調査区

向山遺跡

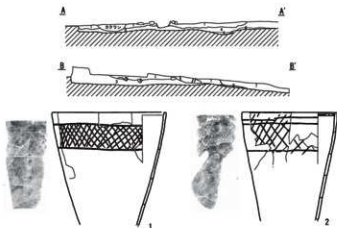
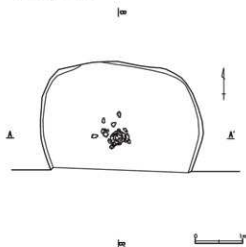
百済木遺跡

荷鞍ヶ谷戸遺跡2次調査区全体図



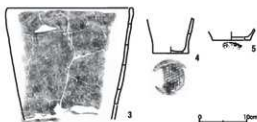
荷鞍ヶ谷遺跡

1号住居 00001

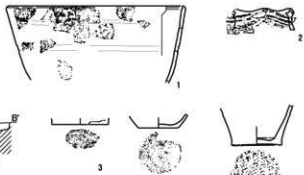
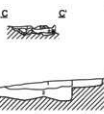
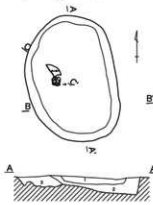


1号住居

- 第1層 黄褐色土層 ロームブロック多量、1m以上のローム層を多数含む。下部に黄土層を多く含む
- 第2層 黄褐色土層 黄土層。約1m以上の黄土層・ブロックを多数含む。炭化層も含む
- 第3層 黄褐色土層 ロームブロックを多数含む
- 第4層 黄褐色土層 砂礫の土層。分層状を多数含む。下部に地山の黄褐色土層ブロックが露出。黄土層を少量含む
- 第5層 黄褐色土層 砂礫が露出した土層。黄土層を多く含む
- 第6層 黄褐色土層 褐色土と黄褐色土の混成層 砂礫層埋没土層
- 第7層 黄褐色シルト土層 ローム層を多く含む。炭化層・黄土層を少量含む。粘性土



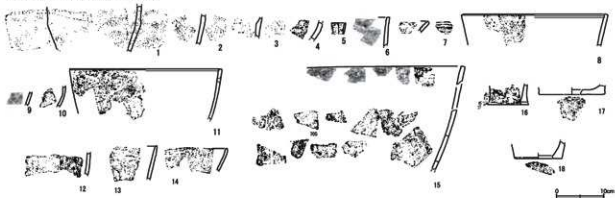
2号土坑 00002



- A-A' B-B'
- 第1層 黄褐色土層 白色粘質土。黄褐色土ブロック少量。黄土粘質土。炭化層を少量含む。土層をわずかに含む。しまり強。粘性弱
 - 第2層 黄褐色土層 白色粘質土。黄褐色土・黄褐色土ブロック少量。黄土粘質土。炭化層を少量含む。しまり中強。粘性弱
 - 第3層 黄褐色土層 白色粘少量。黄褐色土粘質土。黄土粘質土。炭化層を少量含む。しまり中強。粘性弱

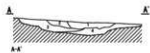
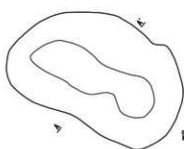
- C-C'
- 第1層 黄褐色土層 白色粘質土。黄褐色土粘質土。黄褐色粘質土を少量含む。しまり強。粘性弱
 - 第2層 黄褐色土層 白色粘質土。黄褐色土粘質土。炭化層を少量含む。しまり中強。粘性弱
 - 第3層 黄褐色土層 砂礫の黄褐色土ブロック多量。黄土粘質土を少量含む。しまり中強。粘性弱
 - 第4層 黄褐色土層 黄土粘少量。黄褐色土粘質土。炭化層を少量含む。しまり中強。粘性弱
 - 第5層 黄褐色土粘質土 黄褐色土粘質土。黄土粘質土。炭化層を少量含む。しまり中強。粘性中強
 - 第6層 黄褐色土粘質土 黄褐色土粘質土。黄土粘質土。炭化層を少量含む。しまり中強。粘性弱

縄文時代包含層 00003



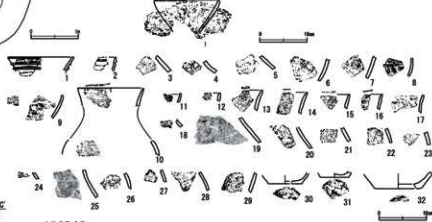
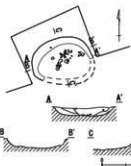
荷鞍ヶ谷戸遺跡

1号土坑 00004



- 第1層 弥生晩土層 白色砂多量、磁土片、炭化物や植物遺存物C、L、Mの中心部、磁性質
 第2層 弥生晩土層 白色砂多量、焼土片や植物遺存物C、L、Mの中心部、磁性質
 第3層 弥生晩土層 白色砂多量、ロームブロック少量、炭化物や植物遺存物C、L、Mあり、磁質中多量
 第4層 弥生晩土層 白色砂少量、ロームブロック、ローム塊を少量含むC、L、Mあり、磁性質

3号土坑 00005



- A-K B-C
 第1層 弥生晩土層 白色砂多量、炭化物や植物遺存物C、土器(多ヶ谷戸)を含むC、L、Mの中心部、磁性質
 第2層 弥生晩土層 白色砂多量、ローム塊を少量含むC、L、Mの中心部、磁性質中多量
 第3層 弥生晩土層 白色砂多量、ロームブロック少量、ローム塊を少量含むC、L、Mあり、磁性質
 第4層 弥生晩土層 白色砂少量、ローム塊少量、磁質晩土層(1層)を少量含むC、L、Mあり、磁性質

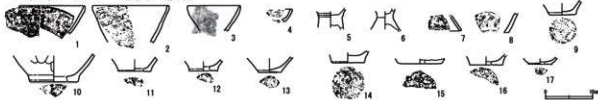
弥生時代包含層 00006 (壺)



包含層 00007 (壺)



包含層 00008 (高坏・底部)



報告書抄録

フリガナ	カハ ^ハ タイ ^キ	ニクラ ^ク ヤ ^キ イ ^キ	ムシヤ ^キ イ ^キ
書名	川端遺跡1次調査、荷鞍ヶ谷戸遺跡2次調査・向山遺跡1次調査		
副書名			
シリーズ	埼玉県深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書		巻次 91
編著者	村松 篤		
編集機関	深谷市教育委員会		
所在地	〒366-0823 埼玉県深谷市本住町17-7		Tel. 048-572-9581
発行日	2007年3月30日		
所収遺跡	所在地	コード	北緯 東経 調査期間 調査面積 調査原因
川端遺跡	深谷市島山	11406135	36° 13' 26 139° 26' 88 1987/11/1~12/19 1000㎡ 下水処理場建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構 主な遺物 特記事項
川端遺跡	集落	縄文後期	包含層 土器
	集落	古墳時代	住居2、建物2 土師器、金環、土鍾
	集落	奈良平安	住居8、建物1、柱穴 須恵器、土師器
	集落	中世	柱穴 青磁、古銭
調査の概要	荒川河岸段丘上に立地する。北側は荒川本流に接しており、川幅が狭く交通の要所であったことが推測される。古墳時代後期から平安時代にかけて継続する集落で、隣接する如意遺跡と同様の立地を見せる。8世紀初頭の出土品や平安時代の掘立柱建物の柱穴から緑軸陶器破片が注目される。また、土鍾の多量出土は荒川を舞台とした漁労活動の活気を示すものと考えられる。		
所収遺跡	所在地	コード	北緯 東経 調査期間 調査面積 調査原因
荷鞍ヶ谷戸遺跡	深谷市本田	11406110	36° 12' 13 139° 30' 61 1997/8/18~11/8 840㎡ 道路建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構 主な遺物 特記事項
荷鞍ヶ谷戸遺跡	集落	縄文早期	包含層 条痕文土器、礫器
	集落	縄文後期	住居1、土坑1 堀ノ内式土器
	集落	弥生後期	土坑2、包含層 吉ヶ谷式土器、石器
向山遺跡	集落	中世	井戸1 特になし 他風倒木痕あり
調査の概要	江南台地上の道路幅の調査。埋没谷に縄文早期と弥生後期の包含層を形成する。この埋没谷をのぞんで斜面下位から縄文後期住居と弥生後期土坑が形成される。後期の住居は隅丸方形を呈し、石囲炉の中央に埋甕を埋設し、底面には大型破片を敷き詰めている。弥生後期は吉ヶ谷式土器が出土し、石器を伴出する。本遺跡の南限にあたるものと考えられる		

川端遺跡 1次調査
 荷鞍ヶ谷戸遺跡 2次調査
 向山遺跡 1次調査
 平成19年3月30日
 編集発行 深谷市教育委員会
 印刷 凸版印刷株式会社

写真図版

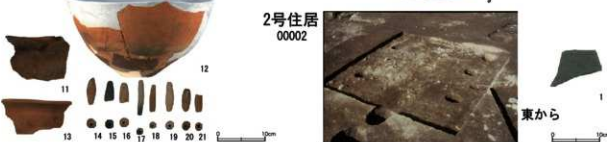


川端遺跡

1号住居 00001



3号住居 00003



川端遺跡
4号住居 00004



東から



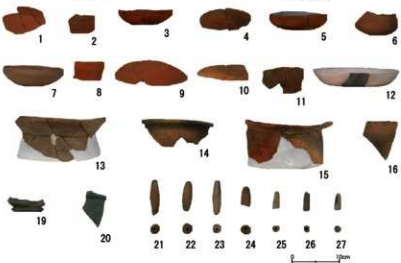
カマド



土師器坏



南から



5号住居 00005



南から



東から



カマド前面



遺物出土状態



カマド内遺物



カマド



土師器坏



須恵器長頸壺



紡錘車

川端遺跡

5号住居 00005



川端遺跡
6号住居 00006



南から



南から



西から



カマド



カマド



遺物出土状態



遺物出土状態



貯蔵穴上面



貯蔵穴上面



須恵器坏蓋



須恵器坏



調査風景

川端遺跡

6号住居 00006



川端遺跡

7号住居 00007



西から



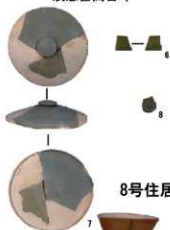
カマド



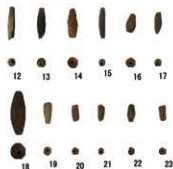
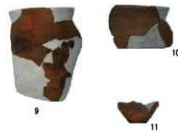
須恵器高台坪



須恵器高台坪



8号住居 00008



10号住居 00010



9号住居 00009



南から



西から



東から



カマド



0 10cm

川端遺跡
柱穴群



東柱穴群南から



東柱穴群北から



31号柱穴緑釉陶器



西柱穴群南から



西柱穴群北から



75号柱穴古銭出土状態



31号柱穴緑釉陶器



南から



東から



0 10mm

荷鞍ヶ谷戸遺跡

1号住居 00001



東から



南から



床面状態



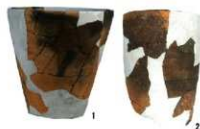
石囲炉



土層



炉内埋壁



1

2



3



4

5



2号土坑 00002



遺物出土状態



確認状態



完掘(東から)



完掘(南から)



焼土分布



土器出土状態



1

2

3

4

5

6



荷鞍ヶ谷戸遺跡

1号土坑 00003



遺物出土状態



土層



3号土坑 00004



西から



遺物出土状態



確認状態



完掘



土層



包含層



確認面(東から)



完掘(西から)



完掘(東から)



谷開口部(東から)



縄文包含層



土器出土状態

荷鞍ヶ谷戸包含層



炭化材検出状態



石器出土状態



条痕文土器

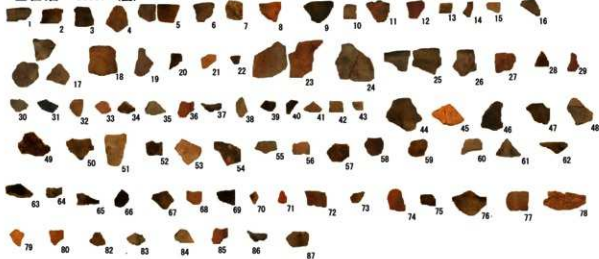
包含層 00003



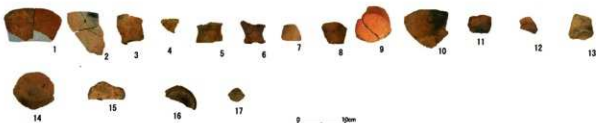
包含層 00006 (壺)



包含層 00007 (壺)

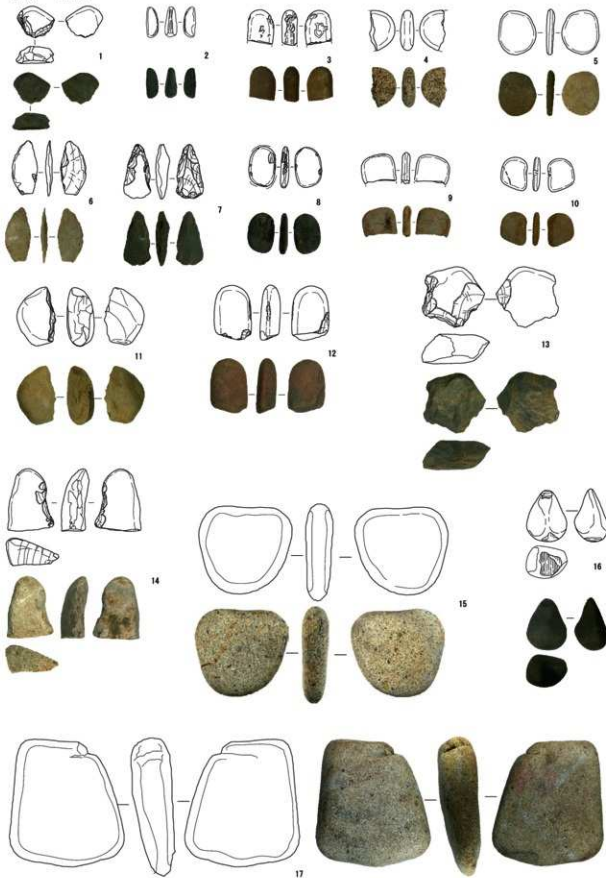


包含層 00008 (高坏・底部)

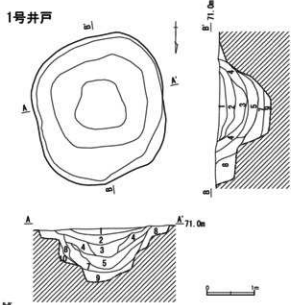
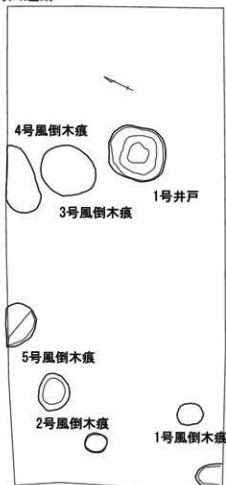


荷鞍ヶ谷戸遺跡

石器 00009



向山遺跡



- 1号 黄褐色土層 白色砂を多量・褐色物を少量・塊土層を多数に含む。塊砂状を多数に含む。LS・V・粉砂層
- 2号 黄褐色土層 白色砂を少量・褐色物を少量・塊土層を多数に含む。LS・V・粉砂層
- 3号 黄褐色土層 白色砂を多量・褐色物を少量・塊土層を少量に含む。LS・V・粉砂層
- 4号 黄褐色土層 褐色物を多量に含む。黄褐色土層・塊土層を少量に含む。LS・V・粉砂層
- 5号 黄褐色土層 褐色物を多量に含む。黄褐色土層・塊土層を少量に含む。LS・V・粉砂層
- 6号 黄褐色土層 褐色物を多量に含む。黄褐色土層・塊土層を少量に含む。LS・V・粉砂層
- 7号 黄褐色土層 褐色物を多量に含む。黄褐色土層・塊土層を少量に含む。LS・V・粉砂層
- 8号 黄褐色土層 褐色物を多量に含む。黄褐色土層・塊土層を少量に含む。LS・V・粉砂層
- 9号 黄褐色土層 褐色物を多量に含む。黄褐色土層・塊土層を少量に含む。LS・V・粉砂層
- 10号 黄褐色土層 褐色物を多量に含む。黄褐色土層・塊土層を少量に含む。LS・V・粉砂層



1号井戸



1号井戸土層



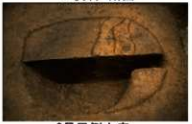
1号井戸断面



1号井戸底面出土裸



1号風倒木痕



2号風倒木痕



3号風倒木痕



4号風倒木痕



5号風倒木痕

